

● 各種訓練の紹介①

避難訓練 —NPO法人 港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま—

みなと交流センターkocoloでは、来場者を対象とした避難訓練を行いました。
地震発生・津波襲来中との想定の下、NPO事務局職員が館内放送で呼びかけを行い、みなと合同庁舎を津波避難場所と想定して、訓練に賛同頂ける方と共に徒歩・駆け足・全力走などの方法にて避難しました。
訓練では、避難場所や所要時間、安全・迅速な避難方法の確認を行いました。

参加者コメント等

- ・避難に要した時間は、40代女性の徒歩で約5分、70代男性・20代女性の駆け足で約3分、20代男性の全力走で2分程度であった。負傷した人たちの搬送を考慮すると、実際にはかなり時間がかかる。
- ・普段のkocoloには、今回の訓練よりも高齢の方の割合が高く、また、近隣の公園等で遊ぶ市民や子供たちへの津波襲来の周知も必要となる。避難支援をいかに適切に行うかが重要な課題。



避難状況



避難場所到着

漂流物対策訓練 —徳島県、小松島市産業振興課、小松島港湾・空港整備事務所—

漂流物対策訓練として、防潮堤の開閉方法、及び開閉時に障害となるゴミの清掃活動を行いました。
防潮堤は、台風などによる高波や高潮、津波等を防ぎ、背後地、人命、財産及び社会経済活動を守るために整備されています。
防潮堤が開いた状態では、瞬時に海水が流れ込み、避難途上の人命や、沿岸域の家屋・家財等の流出など被害は予想外に拡大します。
避難で大混乱が起こる中、限られた時間での防潮堤の閉鎖には多くの危険が伴いますので、常時閉鎖や自動化が検討されております。一般の方にも防潮堤の役割を知ってもらうため、本訓練では開閉方法等の確認を行いました。

参加者コメント等

- ・開閉方法が施設ごとに様々で、油圧ハンドル等がないと開閉困難なものも多い。急な対応は難しい。
- ・津波で流されるようなゴミ等が放置されないように、日ごろから良好な環境を保つ臨港地区の清掃活動が重要。



防潮堤開閉方法



周囲の清掃活動